

===== メルマガ【実践留学道場】オリジナル小冊子 =====

『あなたも成れる英語達人！』  
～～～ 真の実践英語習得への近道 ～～～

=====

(サンプル)

まえがき

本小冊子は、これまで私がメルマガ【実践留学道場】にて、私の実体験をベースに、実践英語習得への様々な情報、ノウハウを公開してきたものを集大成したものです。

メルマガ【実践留学道場】は、読者の皆様のご支援のお陰で、もう既に足掛け9年目に突入しており、執筆、公開させて頂きました内容もかなりたまってきています。中には、読者の皆さんから好評で一部私のホームページに公開中のものもありますが、今般、広く留学実現や実践英語力の向上を目指されている皆さんの為に少しでもお役に立てば、という思いでこの小冊子を作成いたしました。

最近、米国留学に必要なTOEFLを知らない人がいても、このTOEICを知らない人はいないというくらいに、TOEICは日本では有名になってきました。

この小冊子でも、話題のTOEICに対しての高得点取得の究極のノウハウも一部おこんでいます。しかし、テクニック一本やりのノウハウ本が多い中、ここではテクニックというよりも、実践英語習得の実力の証としてTOEICでその実力を示して貰うような方法を解説しています。

英語力の評価尺度として、猫も杓子もTOEIC、TOEICというようになり、このTOEICの是非も議論されています。とはいうものの、本当に真の英語力（私が言うところの「実践英語力」）のある人は、どんな英語のテストも受けても高得点を取ることができる筈であり、そういった意味で、このTOEICも例外ではありません。

本小冊子の構成としては、先ず、過去のメルマガのコラムから、真の英語力を養成する為の基本的なポイント、考え方を【第1章】で、真の英語力とは？、としてまとめてみました。

次に、【第2章】では、実践英語習得に向けて、と題して以前ブームになりました『英語は絶対、勉強するな！』（著者：チョン チャンヨン氏）の著書を題材に、真の英語力を身につけるにはどうすれば良いのか、という本質にせまっています。

そして、【第3章】では、よく英語力の証として例に出されるTIME誌をベースに、いわゆる英語達人のレベルに迫ってみます。

また、【第4章】では、これまでの話をベースとして、実践英語力を育成し、TOEICで高得点を取れるようになるためのノウハウを詳しく解説しています。これを読んで、実践するだけでも、かなりの英語力が身につく筈です。

最後に、締めくくりとしての【第5章】では、実際の自分の体験から、実践英語習得から留学実現までの道のりをエッセイ風にまとめて見ました。これから海外留学を目指されている方や実践英語力の向上を目指されている方にとって、きっとこのエッセイから得るものが多々あるかと思えます。

どうぞ本小冊子を最大限に活用され、真の英語力向上に向かって励まれて下さい。

メルマガ【実践留学道場】道場主  
多門院 英蔵

## 【 目次 】

- ・まえがき
- ・第1章： 真の英語力とは？

- ・第2章： 実践英語習得に向けて  
～ 『英語は絶対、勉強するな!』は正しいのか? ～
- ・第3章： 英語の達人とは?  
～ あなたは、なぜ『TIME』が読めないのか? ～
- ・第4章： 真のTOEIC高得点取得に向けて  
～ TOEICテストに対しての正しい取り組み方～  
第1節： イントロ (TOEICとは?)  
第2節： スコアアップの真の秘訣は?  
第3節： スコアアップの為のトレーニング方法は?  
第4節： 真の英語力増強の秘策は?  
第5節： 読者にご質問です!  
第6節： 実践英語マスターへの最短コースとは?
- ・第5章： 実践英語習得、そして海外留学へ  
(メルマガ【実践留学道場】から第1話～第12話を編集)
- ・あとがき

## 【第1章】 真の英語力とは?

日頃私が感じていることに、何故日本ではこんなに「英会話学校」や「留学」「英語試験」の為の学校が多いのだろうか、ということがあります。実際、テレビの宣伝や、電車の中の広告でも多くの英会話学校を目にするとします。このところの景気の悪さで閉鎖した学校もあるようですが、やはり依然として多いのが実情でしょう。しかも、かなりの料金のように。(私は正規のコースを受講したことがありませんので、電車のなかの広告のコースに書かれている料金からの判断ですが。)  
これだけ流行っているということは、やはりそれだけ英会話学校に通っている人がいるからだと思うのですが、それでは一体どのような人が主に通っているのでしょうか?  
実は私も以前、さる英会話学校に一時通ったことがあります。もうかなり前(留学するよりもかなり前)のことですのでハッキリ覚えていませんが、確か動機としてはやはり英語で自由に会話ができるようになりたい!、ということだったと思います。ただ、メインのコースではなく、その英会話学校でやってきた英会話ラウンジへの参加でした。正確には覚えていませんが、確か1時間で1,000円～2,000円くらいで、そんなに高くなかったと思います。

そのクラス(ラウンジ)には、若い人からかなり年配の人まで参加されており、いつも大体顔ぶれは同じでした。そして、外人の先生が数名に、生徒である我々日本人も数名か若干多くくらいでしたので、ある程度自由に英語が話せる人であれば、実践英会話力を身につける、あるいは実践で自分の英会話力を試す良い機会であったと思います。

ただ、積極的に話さないと受身の聞き手ばかりとなり、また、話の内容に興味がなかったり、あるいは英語での内容について行けないと、つまらないのではと思います。(実際、私も時々そういう時がありました。)

毎回特に決まった話題というのは無く、誰となく映画の話になったり、政治の話になったりと様々で、あるいは新しい外人の先生が参加されると、出身地のことや日本の印象を聞いたりする人もいましたが、このような質問は何度もできないので、やはり会話の内容が問題となります。

そのようなわけで、英会話ラウンジクラス自体は英語力増強には直接関与せず、他で身につけた英語力を実践で試す場所としての価値はあるのでは、と感じた次第です。

(昔に多少英語を話さされていたようなかなり年配のおじいさん(失礼!)もそのラウンジに良く参加されていましたが、結構、洋画等々で英語を勉強されていたようであり、映画の台詞で聞き取れないところがあると、ラウンジで先生に尋ねていました。――このおじいさんは、暇つぶし兼、英語学習で、かなりこのラウンジを有効活用している感じでした。)

私は、その頃はTOEICで730～750点くらいの英語力だったと思いますが、まだ留学前でネイティブとは会話経験があまり無く、そのラウンジでのネイティブとの会話はかなり緊張しました。というか、自分自身決して満足が行く会話まで至りませんでした。それで、「留学」して更なる英会話力(「英語力」では無く、「英会話力」です)をつけようとした頃は確かか思っていた記憶があります。

しかし、既に皆さんもご存知のように、基本的な文法、語彙といった「英語力」や、更には会話に必要な「話題の知識」無しには「英会話」が成り立つ筈がありません!

お恥ずかしながら、私がそのことを身にしみて感じたのは、かなりあとになってからのことでした。

先ほど、たとえ英会話学校に通ったからといって、自分自身のポリシーや積極性、ある程度の基本的な「英語力」がないとあまり効果が無いのでは？、というようなことを自分自身の体験から書きましたが、これはそのまま「留学」にもあてはまると思います。

決して十分とは言えない語学力であっても、私が無事米国の大学院に留学でき、1年余りという短い期間で卒業できたのも、今から思うとやはり何事にも進んでトライする！という「積極性」があったからではないかと思えます。

確かに私は中学生の頃から英語が好き？で、中学、高校と英語の成績は良かったです。しかし、こと「英会話」「実践英語」という面に対しては決して十分ではありませんでしたし、大学も工学系ですので、英語は学校ではほとんどそれ以降学んでいません。そして、私が「実践英語」の必要性を肌で感じたのは、会社に入って初めて海外出張をしてからです。

海外出張を契機として、本格的な「実践英語」に対しての取組みを始め、その後、実用英検2級、工業英検2級、TOEIC730点以上をクリアしたのが、何と会社に入って数年目です。

しかし、このあたりの「英語力」ではまだまだ不十分であることは自分自身も身にしみて感じていたが、ここで役に立ったのが中学、高校の頃の英語の基礎でした。単語等々は忘れて来ているものの、根がずぼらであって勉強が嫌いな割には、TOEICやTOEFLに対しての直接的な文法等々の勉強もせずにある程度のところまでは力がつき、その後、何度か海外出張しても、ある程度は「実践英語」に対応できるようになり、何とか留学してもやって行けるのでは？、という自身もついてきたのです。それは、この基礎力のおかげです。

(しかし、語彙力の力のなさにはどうすることもできず、これが足を引っ張って、なかなかTOEFLの点数も伸びませんでした。――ただし、留学後、真剣に勉強して？語彙力もついてきたのか、現地ではTOEFLの点数もアップしました。)

今回、この【第1章】の中で私が一番言いたかったのは、たとえ今、自分自身「英語なんてとってもダメだ！」と思っている人がいるとしても、それはその考え自体がダメなのであって、頑張ればきっと道は開けると思います。「ダメ」の理由は人それぞれ色々あるとは思いますが、英語力に関しても基本的に文法、語彙等々（実はこれが一番疎かにされがちな事ですが）をきちんとマスターしていれば、あとは何んとかなります。

(現に、特にお金があるというわけでもなく、しかも、この勉強ぎらいの私が、専門的な英会話学校に通ったりせずに、地道な努力だけで米国大学院への留学、卒業を成し遂げたのですから、誰でもできると思います。)

現在留学を目指されている読者の皆さんや、会社等々で必要に迫られてTOEIC等々の英語の試験の成績を上げたい人も、英語は「継続的なトレーニング」であり、「効果的なトレーニング」を続ければ誰でも上達するということを念頭において頑張ってください。

この小冊子の以下の章をお読みになれば、きっとこのことが理解できるでしょう。

(以下、続きは、本書をお読みください。)